

2016(平成 28)年度は

創立 50 周年スタートの年！



Bit by Bit !!!

2016(平成28)年度 事業計画

① 法人全体の運営と事業

法人全体としての運営と事業等を実施します。

項目	「第11回通常社員総会」開催
活動の内容	2015(平成27)年度の事業報告、決算報告、会費報告、2016(平成28)年度の事業計画、収支予算、役員改選等の報告を行う。
概要	【日時】 2016(平成28)年5月15日(日) 15:00～16:30 【会場】 しいの実シアター

項目	会員親睦交流会の開催
活動の内容	総会に引き続き、かやぶき交流館で会員交流会を開催する。
概要	【日時】 2016(平成28)年5月15日(日) 17:00～19:00 【会場】 かやぶき交流館

項目	理事会開催
活動の内容	理事会を開催し、NPOの運営について、さまざまな企画運営を行う。

項目	「松江市伝統芸能祭」のステージ運営委託事業
活動の内容	2012年度～2015年度に引き続き、松江市より受託。伝統芸能祭がスムーズに進行するようステージスタッフとして参加します。
概要	【日時】 2017(平成29)年3月開催予定 【会場】 未定

項目	やくもネット事務局とポータルサイトの運営
活動の内容	やくもネットの事務局として、八雲町内各団体の運営を支えていく。 また、八雲の情報ポータルサイトから発信していく。 ※通称「やくもネット」は、正式名称八雲町地域振興活動団体交流会といひ、八雲町内の31の団体がひとつになり、八雲町の地域振興を目的に、情報の共有や連携をはかるために結成された会です。ポータルサイトは、「ようこそ八雲へ」で検索できます。

項目	島根演劇ネット事務局
活動の内容	島根演劇ネットの事務局として、運営を支えていく。また、演技ワークショップ等を企画し、島根県内の演劇団体のスキルアップにつなげていく。 ※「島根演劇ネット」は、島根県内の演劇団体が加盟し、情報の共有や連携をはかるために結成された会で、「島根県文化団体連合会」の会員です。

① 法人全体の運営と事業

サポート会の活動

サポート会事務局を中心に、下記の事業を実施します。

項目	サポート月例会
活動の内容	サポート会の活動について話し合う。
概要	【日時】 毎月第1月曜19時30分～ 【会場】 しいの実シアター

項目	会員親睦交流会
活動の内容	サポート会事務局と創造活動メンバーが、NPO正会員の方などを対象に親睦交流会を企画、開催する。おもてなしの心を大切にしてつくる手づくり料理もお楽しみに。
概要	【日時】 2016(平成28)年5月15日(日) 17:00～19:00 【会場】 かやぶき交流館

項目	公演当日のサポート
活動の内容	あしぶえの「セロ弾きのゴーシュ」公演など、しいの実シアターで行われる公演の際の受付、もぎり、当日券販売、場内案内、グッズ販売、駐車場誘導などの活動を行う。ボランティアとしての参加は、どなたでもできます。毎回でなくても構いません。ご希望の方は、あしぶえまでお問い合わせください。

項目	「森の小さな演劇祭2016」のボランティア活動
活動の内容	2016年9月17日～19日に開催する「森の小さな演劇祭2016」に、受付、もぎり、当日券販売、場内案内、グッズ販売、駐車場誘導などの活動を行う。

項目	地域イベント「八重ゆう遊ごいのぼり・ヤクモノチカラ」への出店・PR
概要	【日時】 2016(平成28)年5月7日(土) 【対象】 鯉のぼり見学の市民 他 物販およびあしぶえ50周年冊子の配付およびPR

項目	ボランティアによるしいの実シアター草刈り
活動の内容	地域の人たちやボランティアの協力を得て、春にしいの実シアター敷地内の草刈りを実施する。
概要	【日時】 春:2016(平成28)年6月5日(日)予定 秋:10月22日(土)予定(草おろし)

項目	「落ち葉集め」のエコ活動
概要	【日時】 2016(平成28)年12月11日(日)予定 【対象】 正会員、創造活動会員、サポート会員、一般

② 表現・コミュニケーション能力育成のための事業

この事業の目標	コミュニケーション能力の向上
---------	----------------

「コミュニケーション力をつけさせたい」といった企業や学校現場からの要望に
応えて実施します。

以下は、4月までに依頼のあったところです。

項目	
活動の内容	しまねの文化芸術体験事業<文化芸術次世代育成支援事業> 島根県内の小中学校で、ワークショップを実施 児童・生徒にワークショップを行うことにより、創造力やコミュニケーション力の向上を図り、将来の文化芸術の担い手の育成や芸術鑑賞能力の向上につなげるため、島根県文化団体連合会からの依頼により派遣する。
概要	【希望校】八雲小学校、安来南小学校、八束学園、出雲市高松小学校、市木小学校、 頓原中学校、大田市久手小学校 【対象】 島根県内の希望する学校(小学校6校、中学校1校)

②表現・コミュニケーション能力育成のための事業

出雲市立東中学校	新任教員の研修として劇場でコミュニケーションワークショップ
尚風館	私塾:2期生の2年目 5年生から中学1年 17名
どんぐり館	どんぐり館ファミリーサークル(土曜の午前) 15名程度(小1~小6まで)
まつえ市民大学	音楽コース48名 「舞台稽古」に潜入！ コーラスをいっしょにやってみる！
まつえ市民大学	ふるさと発見コース50名 早くみんなでなかよくなろう！
島根県看護協会	新任看護師、助産師研修ワーク

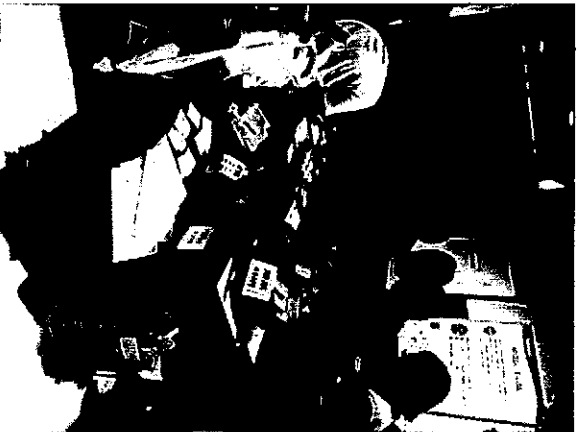
企業からの希望等、 随時、依頼に合わせて実施します。



③ 物販事業

この事業の目標	事業収益増による有効な活用
	<p>あしぶえでは「同じ売るなら、おいしく、健康にいいものをと、お客さまに喜んでいただける、こだわりのグッズを販売し、各運営費を補っています。そして、「心ときめく商品を」と、単なる収益増という事だけでなく、ワクワクを一緒に提供できるようにしていきたいと思いい描きながら、雑貨販売もスタートしました。かやぶき交流館で販売するのに似合う商品をえらんで、陳列しています</p> <p>また、シアター公演、かやぶき交流館での販売以外にも、町内のイベントに参加して、あしぶえのPRを含め物販を行います。(写真)</p> <p>物販事業では、今ある商品の魅力を伝えつつ、新しい商品も提供しながら、新しいお客さまとのつながりを広げていける事業だと思いいます。</p> <p>今後は、かやぶきの集客と物販が結びつく企画を考えながら、他事業との連携の中で、相乗効果を発揮して成長していけるように進みたいと思いいで、積極的に事業収益増による有効な活用を行っていきます。</p>

③物販事業



2015 年度「こりずにやくも」
での出店のようす

④ しいの実シアターの管理・運営事業

この事業の目標 しいの実シアターを市民が親しむ劇場に

「しいの実シアター」の指定管理者として施設管理と、専属劇団による上演など下記の事業を実施します。

事業名	<p>公演事業 ①</p> <p>森の小さな演劇祭2016</p>
助成	<p>文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業</p>
趣旨・目的	<p>平成 11 年から 3 年に 1 度、「八雲国際演劇祭」を開催し、26 年度はその「第 5 回」を実施して、大きな飛躍を遂げた。その一方で更に改善すべき点も明確になり、27 年度は演劇祭のミニ版として「森の小さな演劇祭」を開催し改善に努めた。28 年度は、更に内容を高めたミニ版を開催し、次回開催に備えたい。特に、多くの人に「八雲国際演劇祭」の価値を深く理解してもらい、「観光」とつなげることを考えたい。</p>
期待される効果	<p>①フエスライバル・クルーのリーダークラスの専門性を高め、将来のプロ化に備える。新人クルーの効果的育成を図る。</p> <p>②インターネットと SNS の効果的な利用展開を進めて入場者数の増加を図る。</p> <p>③カナダのコーパスはダンサー集団であるため、「ゼロ弾きのゴージュ」の動物の動きについての交流を図り、作品のクオリティを高める。</p> <p>④鳥取県米子市の中海カナダ協会と共催連携して、演劇の普及啓発に努める。また、兵庫県豊岡市の豊岡市民プラザと連携して、渡航費の按分により経費節減とネットワーク構築を進化させる。</p> <p>⑤平原会館（地域集会所）を初めて演劇祭会場に選び、観客ニーズに合うかどうかを調べる。</p> <p>ひばぼたあむの「かえるくんかえるくん」で「秘密の裏側観劇」を実施して演劇の深さを広める。</p> <p>⑥チェロコンサートを実施することで、音楽フアンも取り込みシアターの魅力を伝えていく。</p> <p>⑦フードショップとレストランの内容を高め、集客につなげる。</p>
概要	<p>【期間】平成 28 年 9 月 15 日(木)～19 日(月・祝)</p> <p>【会場】しいの実シアター、平原会館、かやぶき交流館</p> <p>【演目】ひつじ コーパス(カナダ)</p> <p>かえるくんかえるくん 人形劇団ひばぼたあむ</p> <p>ゼロ弾きのゴージュ あしぶえ(日英台詞)</p> <p>チェロコンサート 野津真亮、灘尾 彩</p> <p>よしの紙芝居</p> <p>【スタッフ】芸術監督：園山土筆 舞台監督：吉中詩織 照明：黒田徹</p>
特記事項	<p>演劇や人形劇以外の楽しみというニーズに応じて、今回初めて似顔絵絵描き等の子どもイベントも実施する。</p>



事業名	<p>公演事業 ② あしぶえ創立50周年記念公演 「ゼロ弾きのゴージャ」</p>
助成	<p>文化庁 平成28年度劇場・音楽堂等活性化事業</p>
趣旨・目的	<p>過去 23 年間に 150 回上演し、3 万人が観劇した「ゼロ弾きのゴージャ」は、27 年度には、舞台装置を無くし、衣装、照明等を変え、身体表現、エレクトリック演奏等についてもスキルアップし、いわゆる具象から抽象にむかう新演出で上演した。宮沢賢治作品の舞台化は非常に難しいが、新演出で作品全体が大変わかりやすくなり、演劇愛好家はもとより、初めて劇場へ来たという人まで幅広い観客に感動してもらったことができた。そのため、あしぶえ創立 50 周年を記念して、再度「ゴージャ」を練り上げ、「しいの美シアター」の宝に育てていく。</p>
期待される効果	<p>①国内で高く評価されている地元衣装作家・八幡垣睦子・志保氏に依頼して、衣装を全て作り直して、海外の観客にも通用するものにする。 ②ペンタゴンの清水きよし氏と人形操作指導の永野むつみ氏を講師に迎えて、動物役の実現力向上を図る。 ③創立 50 周年公演を記念して 29 歳以下を 1000 円という安価料金で誘客し若い人たちの観客増をねらう。 ④日本語と英語の混合台本を作成して上演し、在住外国人を誘客する。 ⑤俳優の呼吸技術を高め、劇中歌の表現力を高める。</p>
概要	<p>【期間】平成 28 年 9 月 18 日、10 月 2 日、16 日、11 月 6 日(全 8 回) 【会場】しいの美シアター 【対象】5 歳児から高齢者まで 【演目】「ゼロ弾きのゴージャ」 【作】宮沢賢治 【あらすじ】 楽団で一番下手なゴージャは楽長に叱られてばかり。音楽会を控えて猛練習をしているゴージャの家へ動物たちがやってくる。彼らから大切なことを教わるが、時間が無いゴージャは焦って思わずカッコウを傷つけてしまう。気づかないうちに上達していたのだと知ったゴージャは、カッコウに謝るのだった。 【出演者】(専属劇団員)有田美由樹、松浦優海、門脇礼子、中村千恵子、伊達生、上田郁子、原敬彦、(地元俳優)原田雅史 (客演)原岡梨絵子、 【スタッフ】園山土筆(演出)斉藤浩(作曲・歌唱指導)稲田道則(照明) 八木謙人(英語台本)永野むつみ(人形操作指導) 八幡垣睦子、八幡垣志保(衣裳)清水きよし(アイテム指導) 須山美玲(企画制作)前村晴奈(舞台監督・音響)</p>
特記事項	<p>2019 年に「国際アパチュア演劇連盟」の世界大会を誘致予定だが、その時のフェスティバルでも、日英混合台詞の「ゼロ弾きのゴージャ」を上演する予定。</p>

事業名	<p>人材養成事業 ①</p> <p>しいの実シブター未来学校(初年度)</p>
助成	<p>文化庁 平成28年度劇場・音楽堂等活性化事業</p>
趣旨・目的	<p>この数年、「未来学校」開校に向けて準備を進めてきたが、いよいよ 28 年度から実施する。</p> <p>自然豊かな当地域でも、子どもたちが外で遊ぶことは無くなった。それに伴って、動物や植物の変化や育ち方への観察眼や感性なども育成されなくなった。また、学校によっては、演劇上演しても理解が浅いため、演劇鑑賞以前の心の耕しが必要になってきた。子どもたちは、イエス・ノーを明確にせず自分の立ち位置を確保して同調することで自分を守っている。加えて、携帯・スマホ等を使って絵文字で感情を表現するため極端に言葉が減っている。こういった子どもたちに対して、「芸術体験」と「暮らし体験」によって、好奇心や興味・関心、コミュニケーション力、表現力、多文化理解などを育んで、将来、自立した社会人として生きていくことができるように育成する。</p>
期待される効果	<p>①「芸術体験」では、人形劇を観て味わい、観る力、観察する力、感じ取る力などを養う。</p> <p>②「暮らし体験」では、昼食メニュー、買い物、道具の準備、料理担当など全てを子どもたちだけで話し合い、それぞれが役割を担って作る。人と協力する力、折り合いをつける力、イメージする力、味わう力、予測して考え行動する力などを養う。</p> <p>③上記①②のほか、コミュニケーションワークショップも実施して友達づくりも行う。</p>
概要	<p>【期間】平成 28 年 8 月 17 日(水)～19 日(金) 3 日間</p> <p>【会場】しいの実シブター、かやぶき交流館</p> <p>【対象】開校 1 年目は、小学 4 年生から中学生まで 20 名程度</p> <p>【上演作品】人形劇団ひばりあむ「ふたりのお話」</p> <p>【出演者】永野むつみ、大澤直、松原由利子 【スタッフ】佐々木紀一</p> <p>【人形操作講師】人形劇団ひばりあむ 代表 永野むつみ</p> <p>【コミュニケーション講師】有田美由樹</p> <p>【カリキュラム】いろいろんな人形を手にはめて、セツトの中で実際にやってみる。簡単そうに見えるものが、実は相当な技術が必要であることを知る。うまくなるためには、どんな力を習得すればいいかを知る。</p>
特記事項	<p>・「ふたりのお話」は、一般観客も誘客する。</p> <p>・将来は、しいの実シブターを子どもたちだけで運営できるシステムを創っていく。</p>



<p>事業名</p>	<p>人材養成事業 ② 第4回ワークショップリーダー養成講座</p>
<p>助成</p>	<p>文化庁 平成28年度劇場・音楽堂等活性化事業</p>
<p>趣旨・目的</p>	<p>平成25年、26年、27年に、高尾隆氏(東京学芸大学准教授)を迎えて、「ワークショップ指導者養成講座」を実施したところ、中学、大学の教員、企業カウンセラー、他劇団員など異業種の人たちが参加して年を重ねることに学びも高まり、大変好評であった。高尾氏による講座を3年間実施し、大きな成果を挙げた後は蓮行氏を講師に迎えて、新たな講座を開催し、幅広いスキルを持つたワークショップ指導者を育成する。今、子どもたちの日々の暮らしの中でインターネット弊害が顕著に表れており、コミュニケーション能力の低下は避けられないほど事態は深刻化している。</p> <p>こういった時代の中で子どもたち自身が、何が必要で何が必要でないかを見分ける力をつけていくことは大変重要なことである。蓮行氏は、その才能と豊富な経験によって、効果的な授業が講座を開催しておられるので、迎えることにした。</p>
<p>期待される効果</p>	<p>①高尾氏からの学びに加えて、蓮行氏からの新たな学びを蓄積していくことで、受講生は幅広いスキルを習得することができる。</p> <p>②幅広いスキルをもったワークショップリーダーの増加は、学校、大学、地域等の様々なニーズや地域課題に対応できるようになる。</p> <p>③講座講師としてだけでなく、演劇による社会教育の実践についても話を聞くことができる。</p>
<p>概要</p>	<p>【期日】平成29年1月(2日間) 【会場】しいの美シアター</p> <p>【講師】蓮行(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師) 演劇の社会教育に着目し、未就学児から社会人まで幅広い人を対象に、多くの演劇ワークショップを手掛ける。専門は演劇、演劇教育、文化政策。</p> <p>【カリキュラム】受講生のレベル・経験には個人差があるため、各自にあった指導を依頼することになっている。</p>

事業名	<p style="text-align: center;">人材養成事業 ③</p> <p style="text-align: center;">第1回俳優のための表現力養成講座</p>
助成	文化庁 平成28年度劇場・音楽堂等活性化事業
趣旨・目的	<p>あしぶえで企画・制作・上演している「セロ弾きのゴーシュ」では、ベートーベンの「第六交響曲」の演奏が重要な役割を占めている。特に、ラストの演奏会シーンでは、オーケストラ団員役の俳優がそれぞれ自分の楽器を演奏するとともに、楽器の特徴を声で表現しながら、なお且つ4部合唱に仕上げ盛り上げなければならぬ。</p> <p>27年度は、相当量の練習を重ねて上演し好評を得たが、更に観客の感動を誘うためには、指導者による高い要求とそれに伴う練習が必要となる。そこで、4人の指導者を迎えて、作品のクオリティを高める。</p>
期待される効果	<p>①「セロ弾きのゴーシュ」の全音楽を作曲している斎藤浩氏から、新しい歌唱の呼吸法を学び、楽手役全員が統一性のある合唱を披露することができる。</p> <p>②チェロ奏者の喜久里誼氏から、チェロとバイオリンの特徴と演奏技術を学ぶことができる。</p> <p>③身体訓練指導者の田中禎子氏から、俳優一人一人に対して身体的特徴を指摘してもらい、各自に合った訓練方法を磨くことができる。</p>
概要	<p>【期日】平成28年4月～9月</p> <p>【会場】しいの実シアター(島根県松江市八雲町)</p> <p>【回数】斉藤浩(3回) 喜久里誼(3回) 田中禎子(5回)</p> <p>【講師】斉藤浩 大阪音楽大学作曲家卒業、アジア人で初めてツインバロン・ソリストデインプロを授与された打弦楽器奏者。</p> <p>喜久里誼 島根大学教育学部特設音楽課程卒業。大阪フルハーモニ一交響楽団、広島交響楽団のチェリストとして活躍した後、山陰でトリーナーとして活動。バイオリン、チェロの指導者としても著名。</p> <p>田中禎子 クルム伊達公子らのソイジカルトレーナー中野ジェームズ修一氏、石井完厚氏に師事。アメリカスポーツ医学認定ヘルスソフィットネススペシャリスト等。</p>



<p>事業名</p>	<p>人材養成事業 ④ 第1回ボランティア・クルーの人材養成事業</p>
<p>助成</p>	<p>文化庁 平成28年度劇場・音楽堂等活性化事業</p>
<p>趣旨・目的</p>	<p>「しいの実シアター」及び「八雲国際演劇祭」のボランティア・クルーは、16年にわたって様々な体験を重ねて企画・運営のスキルアップを実践してきた。その成果は、多数の他団体視察受入れに表れているが、今後は、理論的にも専門知識を蓄えて、新人及び中堅ボランティアを養成できるコーディネーション力アップを目指す。その中で優秀な人材を平成32年度の「第7回八雲国際演劇祭」からプロとして活用する。この事業は継続開催して、他都市から講師を迎えなくても地元の人材から専門的に学べるような仕組みを創っていく。</p>
<p>期待される効果</p>	<p>①岐阜県可児市の可児文化センターでボランティア活動を行っているNPO法人alaクルーズの活動を見学・交流して実践力アップを図る。 ②日本ボランティアコーディネーター協会から講師を招いて理論的な専門知識を学ぶ。</p>
<p>概要</p>	<p>【期日】①NPO法人alaクルーズ 平成28年7月(1回) ②日本ボランティアコーディネーター協会 平成29年1月(1回) 【会場】①可児市文化創造センター (岐阜県可児市) ②しいの実シアター 【対象】「しいの実シアター」「八雲国際演劇祭」で継続的にボランティア体験をした人の中からプロ化を目指す人。10名程度。 【講師】①NPO法人alaクルーズ担当者 ②日本ボランティアコーディネーター協会 筒井のり子 【カリキュラム】 ①プロボノスタッフ事業、自主的な事業の企画・運営、広報事業、研修・交流事業の詳細について、具体的な方策等を学ぶ。 ②「そもそもボランティアとは」といった初級編から中級編の学び。</p>

事業名	<p>【人材養成事業】 ⑤ 大学等との連携</p>
助成	<p>文化庁 平成28年度劇場・音楽堂等活性化事業</p>
趣旨・目的	<p>①インターシニアの実施 しいの実シニアターの年齢別来場者の中で最も割合の低いのは20代である。この世代が劇場業務や芸術活動等を学ぶことで、劇場や文化芸術により高い関心を持つことができる。この取組の継続で、今後の劇場関係者や演劇鑑賞者の増加を図り、しいの実シニアターの活動を広める。</p> <p>②講師派遣の目的 島根県立大学短期大学部は、就職後3年未満の離職率が高いことに悩んでおり、その原因はコミュニケーション力の低下にあるとして指導依頼があった。本年は、5年計画の4年目事業である。</p>
期待される効果	<p>①インターシニアの実施 プロスタッフ、もしくはボランティアスタッフとして劇場運営に加わってくれる優秀な人材を見つけることができる。その後、育てていくことで、劇場運営をより活性化させていくことができる。</p> <p>②講師等の派遣 表現・コミュニケーション力育成授業を実施することにより、大学生の意識が変わり、各自が自分の意見を持ち、他者に伝える力を学ぶことができる。</p>
概要	<p>① インターシニアの実施 平成 28 年 7 月～9 月、平成 29 年 3 月 しいの実シニアター (3 回)</p> <p>② 講師等の派遣 平成 28 年 4 月 (1 回) 保育学科のみのワークショップ 平成 28 年 4 月～7 月 毎週月曜日 9:00 から 12:10 (計 13 回) 総時間数: 52 時間 島根県立大学短期大学部 体育館アリーナ 学生数: 保育学科 54 名、健康栄養学科 6 名 講師: 園山土筆、有田美由樹、前村晴奈</p> <p>【カリキュラム】</p> <p>① インターシニアの実施 劇場運営やアートマネジメントに興味を持っている大学生を受入れ、5日間、劇場の業務を体験してもらい、日々意見交換を行う。</p> <p>② 社会での「就業力」育成の準備段階として、良好な対人関係を構築するため にインプログamesのワークショップを実施する。初回は全員参加のオリエンテーションとワークショップ体験。2回目からは20名ずつで3グループをつくり、インプログamesと振り返りを体験する。毎回、課題への取組と、自分自身の変化についての振り返りを実施することにより、自分の得手不得手を知り、キャリア形成に必要な自己表現力、コミュニケーション力を身につける。</p>

事業名	<p>普及啓発事業 ① 学校公演「セロ弾きのゴーシュ」</p>
助成	<p>文化庁 平成28年度劇場・音楽堂等活性化事業</p>
趣旨・目的	<p>10年ほど前までは、県内の学校から度々学校公演を依頼されていたが、近年は皆無となった。学校の芸術鑑賞予算が無くなったことが主な原因と言われている。しかし、依然として学校公演を実施しているところもある。そういった地域格差、学校格差も広がっている。格差の渦の中にいた子どもたちは、社会人になるまで観劇経験を持っていない。その数の多さには驚くことがある。こういった状況を打開するため、「セロ弾きのゴーシュ」の学校公演を熟考してきたが、27年度、28年度に「セロ弾きのゴーシュ」が具象から抽象に向かい舞台装置が無くなったことによって、安価公演が可能となったので実施に移す。</p>
期待される効果	<p>①演劇鑑賞経験の無い子どもたちにも観劇する機会をつくることができる。そして、事前学習を実施することによって、見る力、感じ取る力、感性、想像力等が刺激され、演劇の楽しさを知ることができる。 ②教員の異動によって、クオリティの高い作品が安価で観劇できるというこの事業が口コミで広がっていく。 ③しいの実シアターの存在や、「しいの実シアター未来学校」「八雲国際演劇祭」等への興味・関心が広がっていく。</p>
概要	<p>【実施日時】平成29年2月 【実施場所】大田市立久手小学校(島根県大田市久手町) 【実施回数】公演1回、事前学習1回 【演目】セロ弾きのゴーシュ【原作】宮沢賢治 【あらすじ】楽団で一番下手なゴーシュは楽長に叱られてばかり。音楽会を控えて猛練習をしているゴーシュの家へ動物たちがやってくる。彼らから大切なことを教わるが、時間が無いゴーシュは焦って思わずカッコウを傷つけてしまう。気づかないうちに上達していたのだと知ったゴーシュは、カッコウに謝るのだった。 【出演者】(専属劇団員)有田美由樹、松浦優海、門脇礼子、中村千恵子、伊達生、上田郁子、原敬彦、(地元俳優)原田雅史、(招へい俳優)原岡梨絵子 【スタッフ】園山士筆(演出)門脇礼子(照明)前村晴奈(舞台監督・音響)</p>

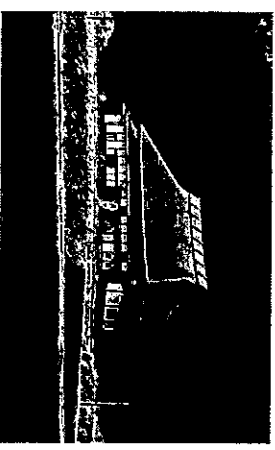
事業名	<p>普及啓発事業 ②</p> <p>永野むつみ講演会</p> <p>「芸術の力で子育てを」</p>
助 成	<p>文化庁 平成28年度劇場・音楽堂等活性化事業</p>
趣旨・目的	<p>自然の中で日が暮れるまで遊ぶことのできた時代、家族が大勢で夕飯を食べることができた時代、大家族の中でお互いが気遣いしながら生きてきた時代は、もう過去の話である。そういった時代では、日々の生活の中で感性や想像力、創造性が培われてきたので、それほどには芸術の必要性は高くなかったかも知れない。しかし、3～4歳でも人さし指だけで使えるスマートフォンが登場した現在では、子どもたちの人間的な成長には芸術の力が不可欠であることを伝えたいかなければならない。</p> <p>講師の永野むつみ氏は、多種多様な人物を表現してきたため、様々な声を自由に発する女優である。講演の中でエピソードを語る時など、その場面を容易に想像させる再現力をもっており、講演会など聴いたことのない人でも時間が経つのも忘れて集中して聴くことができる。</p>
期待される効果	<p>①27年度も同じ演題で講演会を開催した際、「人形劇は子どもが観るものと思っていた。人形劇の俳優がこれほどまでに、子どもたちの育ちに熱意をもっているとは知らなかった」との感想が多く聞かれた。これらの思い込みを減らして、芸術の力が子育てにどれほど必要であるかについて届けていけば、やがてそれは観客数に表れてくる。</p> <p>②しいの実シアターや演劇祭を運営しているフェスティバル・クルー(ボランティア)も、この講演を聴くことによって、自分たちの活動がどれほど社会貢献になっているかを実感することができ、より一層、クルーの活動が活き活きと運営されていく。</p>
概 要	<p>【期日】平成28年9月17日(1回)</p> <p>【会場】平原会館</p> <p>【講師】永野むつみ</p> <p>【スタッフ】</p>

その他、貸館事業を実施します。

⑤ かやぶき交流館の管理・運営事業

この事業の目標 市民の文化拠点としての施設運用及び劇場との連携

松江市かやぶき交流館の指定管理(施設管理)の
2年目です。
市民に親しまれる交流スペースとして集客・誘客に
力を注ぎます。



⑤かやぶき交流館の管理・運営事業

項目	「森の小さな演劇祭」レストラ事業
活動の内容	2016年9月17日～21日まで開催する「森の小さな演劇祭」開催時、19日から21日までの3日間、しいの実シアターと連携して、かやぶき交流館でレストランを運営する。観劇の前後、食事をとりゆっくり過ごしていただき、演劇だけでなく劇場・交流館周辺の豊かな自然をたのしんでいただく。
概要	【期間】 2016(平成28)年9月19日(土)～21日(月・祝) 11:30～14:00 【会場】 かやぶき交流館

項目	きて！みて！やくも収穫祭 参加事業
活動の内容	八雲町内のイベントに参加し、地元産品の販売と施設PRを行う。
概要	【期間】 2016(平成28)年11月13日(日)

項目	ギャラリー事業
活動の内容	中国・九州の団体・個人と提携し、小物展示と販売会を行う。
概要	【期間】 2016(平成28)年10月7日(金)～10日(日・祝) 10月20日(木)～24日(月)

貸館事業の他、多くの人に訪れただけできるよう、随時企画・運営を行っていきます。

⑥ 八雲国際演劇祭の運営に関わる事業

この事業の目標 「八雲国際演劇祭」で人づくり・まちづくりを

3年後に世界的なフェスティバル招致を計画中です

⑨ 八雲国際演劇祭の運営に関わる事業

世界 90 カ国が加盟している「国際アマチュア演劇連盟」は、2019 年(平成 31)に日本で世界大会を開催したい意向を示していました。

あしづえは、連盟のロザ・ソビン・ヒュネヒテン会長(ベルギー)と 30 年来の交流があるため、くにびきマッセの招致希望をも汲み取って、交渉の場で「松江市開催」を提案したところ、会長もマッセも了解され、その後、松江市も積極的に動き出すことが確認されました。日本初の大会で、松江市の教育、文化、観光行政にも多大な影響をもたらせるプログラムです。今年度中に準備委員会(仮称)を立ち上げて細かな検討に入っていく予定です。

項目	活動のねらい	概要
「記録誌」による PR活動	「第5回」の記録誌を国内外に配付し、「八雲国際演劇祭」の飛躍を広く知ってもらい、今後の集客につなげる	県内の場合は、可能な限り持参して関係性づくりを行う。
「コミュニケーション・ワークショップ」の実施	「第5回」の10万円以上の支援団体を対象に、希望する企業にあしづえが会社訪問し、「コミュニケーション・ワークショップ」を無償提供する。	希望企業を募り、適宜開催する。